

一誌一句(受贈誌より)

米田 透 抄出

家中の刃物を研げり梅雨晴れ間

(山 繭)

宮田 正和

電子音の溢れし病棟夏陽さす

(信濃俳句通信)

佐藤 文子

たんぽぽややっぱりひとりはつまらない

(天 塚)

宮谷 昌代

蟻螻や過去は謎めく尼法師

(水 明)

山本鬼之介

白日傘訪ね歩いて飛鳥まで

(遊 牧)

塩野谷 仁

睡蓮や水は程よき濁り得て

(湾)

和田 洋文

滝行のつもり「シャワー」を「強」とせり

(青 岬)

衣川 次郎

蛇見しを告ぐれば母は吉兆と

(壺)

高橋 千草

花は葉にセルフカットの髪をどる

(鳴)

高橋 道子

深吉野の崖に咲き出て朴の花

(運 河)

茨木 和生